

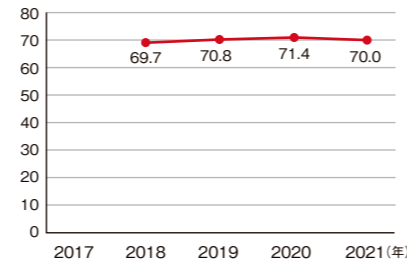


学生数/約2600人  
 学群/システム工、環境理工、情報、経済・マネジメント  
 大学院/工学  
 ●THE世界大学ランキング2021/1001+位、同日本版2021/=91位、中国・四国エリア総合8位

THE世界大学ランキング日本版2021の結果

分野	スコア	順位	参考データ
総合	47.4	=91位	外国人学生比率/1.8%
教育リソース	42.3	100位	日本人学生の留学比率/2.0%
教育充実度	70.0	58位	外国語で行われている講座の比率/2.6%
教育成果	35.2	=86位	学生の男女比/22:78
国際性	29.4-39.9	151-200位	

教育充実度の推移



教育力とその広報

<b>教育の特色</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶「人が育つ大学」を実現するため、学群・専攻制、全科目選択制(必修科目なし)、クォータ制を導入。企業経験豊かな専任の教育講師制度を採用</li> <li>▶「人が交わる設計」を念頭にいた環境の整備</li> </ul>
<b>成果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶THE世界大学ランキング日本版2021「教育充実度」分野で中国・四国3位(全国の公立大学9位)など、各種調査における評判調査で教育力が評価される</li> <li>▶国内外の学会で研究発表する学生が毎年延べ200人以上</li> </ul>
<b>広報</b>	<b>高校生</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶動画配信を通じて、大学の学びを発信</li> <li>▶オンラインオープンキャンパス等を実施し、遠方の高校生との接点を増やす</li> </ul>
	<b>高校教員</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶高校訪問、教員向け説明会の積極的な実施</li> <li>▶探究学習、出前授業などを通じた高校との連携強化</li> <li>▶各種ランキング等の活用による教育力広報</li> </ul>

注目!

成績優秀者の能力をより大きく  
 開花させるオナーズプログラム

高知工科大学は、学修意欲の高い学生を総合的に支援するための制度「KUTアドバンスプログラム」を実施している。これは、特待生と成績優秀者を対象とした特別なプログラムで、「経済的支援(学費免除、奨学金給付)\*」、「学士・修士課程一貫教育」「国際感覚醸成(海外留学、海外研修支援など)」「就職支援(インターンシップへの参加支援など)」を柱としている。特待生として認定されるには、共通テストで一定以上の成績を修めて合格すればよく、人数制限や所得制限はない。ただし、各学群の成績上位10%程度に入っていないければ、特待生から外されるため、モチベーション維持が不可欠だ。アドバンスプログラムの学生は2年次から研究室に所属できるので、先輩学生に刺激を与え、研究活動の活性化にもつながっているという。

KUTアドバンスプログラムの主な内容

プログラム	主な内容
経済的支援	特待生Sは、入学科・授業料免除+年間120万円の奨学金給付。特待生Aは、年間60万円の奨学金給付
学士・修士課程一貫教育	学士課程早期卒業後、修士課程までを5年間で修了
国際感覚醸成	海外への留学やインターンシップへの参加支援など
就職支援	推薦入社制度がある優良企業への応募の支援や、インターンシップへの参加支援など

\* 経済的支援は特待生として入学した学生のみが対象

CASE STUDY

“人が育つ”教育を全国に発信

高知工科大学(KUT)

日本版ランキングの「教育充実度」分野で、前年に続き中国・四国地区3位にランクされるなど、教育力を高く評価されている。その背景にある教育システムについて聞いた。



学生支援部 入試・広報課 主査 濱田 康太  
 はまだこうた ●2013年に高知工科大学職員として入職。就職支援部門、財務部門、広報部門を経て、2021年より現職。広報業務全般を担当。

学生が自ら選択して  
 最適な学修を实践

1997年に、「大学のあるべき姿を常に追求し、世界一流の大学を目指す」という高い志を掲げて、本学は開学しました。「人が育つ大学」をモットーに、先進的な教育システムをいち早く取り入れ、学生が自分の希望に合わせて、必要な力を身に付ける個別最適な学修を实践しています。

本学では3年次に自分の専攻を決める、「学群・専攻制」をとっています。理学や工学、経済・マネジメントといった本学の研究領域は、科目を組み合わせることで、多様な学修を実現できます。そこで、低学年時に自身の目的や興味に合わせて自由に学んでから、自分の専攻を決める制度にしているのです。

そのため、あえて必修科目は設

けていません。クォータ制を日本で最初に導入したのも、学期ごとの成績に応じて履修登録を変更できるメリットを考慮してのこと。授業時間を3時間目までに集中させて、それ以降は学生が予習や復習、課外活動などに打ち込めるようにもしています。

これらのしくみで「人が育つ」には、学修に対するモチベーションが欠かせません。本学では研究室を講義室の対面に配置し、かつガラス張りになっているため、学生は1、2年次から日常的に先輩たちが研究に打ち込む姿を目にします。ロールモデルとなる先輩の存在は、学修の目標になっているようです。また、企業で長年活躍した人が、専門の教員とは違った目線で4年間継続して指導や支援に当たる教育講師制度により、目標の実現につながる実践的なアドバイスを受けることもできます。

こうした取り組みは、外部のランキング結果等を分析し、効果測定をしています。そこからは、学生の教育満足度が他大学と比べて高いことがわかっています。

教育力を証明する  
 客観的なデータの活用

広報に関しては、ここ数年、高

校訪問や教員向け説明会に力を入れていきます。これは、毎年実施する新入生調査で、入学のきっかけは「高校の先生に勧められたため」という回答が多く見られたからです。教育内容などについて他大学と比較し、客観的な意見を聞けることが、高校生にとって説得力があるのだと思います。

前年度はコロナ禍の影響で、高校教員や高校生を対象とした広報は、オンラインやSNSが中心になりました。対面広報とは異なり、相手の反応が直接つかみにくいため、調子が出ない面もありましたが、北海道や東北の高校生と新たな接点が生まれるなど、収穫もありました。そこで、本年度もWebなどを活用した広報は引き続き継続し、さらに今まで情報を届けられていなかった地域にも発信していく予定です。その際、ランキングなどの第三者による外部指標は、本学のことを知らない人にとって信頼性が高く、効果的な広報材料になると考えています。

高知県は四国の中でも、18歳人口の減少が急速に進むと考えられます。全国への広報の重要性が今は増すでしょう。もっと多くの人に本学の魅力を伝えられるように、これからも広報の工夫に努めていきます。

取材・文/本間学